

平和への想い

長久手市中学生広島平和体験学習事業

平成二十七年八月五日及び八月六日に、長久手市内在住の中学生十五人（三年男子一人・女子二人、二年男子二人・女子一人、一年男子三人・女子六人）が広島を訪問して広島平和記念資料館等を見学し、平和記念式典に参列しました。

戦争の悲惨さ、平和の意義について学習しました。

※感想文についての在籍校・学年は平成二十七年当時のものです。



長久手中学校（一年） 加藤 春香

私は、原爆ドームや広島平和記念資料館の写真を見た時、おもわず息を飲んでしまいました。あまりの恐ろしさに、残酷さに、胸が痛みました。

原爆ドームは、教科書などで見たことはあるけれど、本物は見たことがありませんでした。迫力が全然違いました。原子爆弾の恐ろしさを、動かない証人として、その事実を物語っていました。ものすごく暑かったけど、その暑さが寒気に変わったくらいでした。

広島平和記念資料館に入った時、その恐ろしく残酷な写真や遺品に、心がとてもしめつけられるように悲しみがわき上がってきました。原爆の熱風で、着物の模様が皮膚についた女性、八時十五分で針が止まっていた時計、くしを入れたらあつという間にとれてしまった髪の毛、さだ子さんが本当に折った折りづるなど、どれも目に焼きついていきます。他にいた観光客の人たちは、写真を撮っていたけれど、私は、あまりの恐ろしさに、とても写真なんて撮れませんでした。

そして、平和記念式典。ケネディ大使や安倍首相など、国内だけでなく、外国から来ている人も多く見られました。暑くて大変だったけど、こんなすごい式典に出ることができて、良かったです。いろいろな方々の話を聞いて、胸がうたれました。

私は、原爆ドームを見たり、平和記念式典に参列したりして思ったことは、やはり、「絶対に戦争なんかを繰り返してはならない。」ということです。実際に行って、改めてそう思いました。とてもこわかったけど、貴重な体験ができて良かったです。写真などを見ると、被爆者の人たちの叫びが聞こえてくるようでした。戦後七十年という節目の年をさかいにして、世界から戦争がなくなることを祈っています。

